

57.スイゼンジノリから見つかった巨大多糖類「サクラン」のドライスキンに対する効果

深谷宣央¹⁾ 樋口明日香¹⁾ 安倍秀和¹⁾ 翁長龍太郎¹⁾ 鎌田洋輔¹⁾ 田村恵理¹⁾
山本麻梨乃¹⁾ 弘田量二²⁾ 菅沼成文²⁾

¹⁾ 高知大学医学部医学科4年生 ²⁾ 高知大学教育研究部医療学系連携医学部門環境医学

【背景】

サクランは、日本のみに自生するスイゼンジノリから見つかった巨大硫化多糖類で、ヒアルロン酸の約10倍の保水力をもつ、ぬめり成分である。サクランは、強いかゆみ止め効果や抗炎症効果が当研究室の動物実験により明らかにされている。また、コンゴ民主共和国で行ったアトピー性皮膚炎臨床試験においても治療効果が得られている。サクランは特許がすでに登録され、各種安全性試験もクリアしており、日本独自の医薬品・スキンケア商品としての市場展開が期待される。

【目的】

20代30代の男女における、ドライスキンに対するサクランの改善効果を明らかにするために、塗布試験を行った。

【方法】

医学科4年生のクラス96人に、0.05%サクラン溶液およびサクラン以外は同成分の対照化粧水を渡し、右腕；サクラン、左腕；対照化粧水を毎日1回塗布してもらった（塗布実験は2011年11月～12月）。塗布前日、28日後に肌環境（硬さ、皮脂、水分量、pH）の測定を行った。

【結果】

上記4項目すべてのデータが得られた59名について、塗布後、塗布前の差分について測定値のT検定（対応なし）を行った。以下サクラン vs 対照化粧水（p値）。硬さ； 0.677 ± 12.881 vs 1.729 ± 13.038 （ $p=0.647$ 有意差なし）、皮脂； -0.949 ± 2.494 vs -1.220 ± 2.717 、水分量 -8.949 ± 11.252 vs -11.678 ± 7.689 （ $p=0.009$ 有意差あり）、pH； 0.222 ± 0.5285 vs 0.348 ± 0.480 （ $p=0.017$ 有意差あり）で、水分量の保持とpHを低く保つ効果に有意な効果が認められた。

【考察】

天然物由来のぬめり成分が、肌の美容に非常にいいとテレビや新聞などで盛んに宣伝されている。スイゼンジノリの日本唯一の生息地である福岡県黄金川は、現在、ダム建設候補地となっており絶滅が危惧されている。サクランの医薬品・化粧品などへの応用がさらにすすみ、広く利用されることで、保護活動に勢いがつくことが期待される。

【結論】

サクランの皮膚水分量の保持とpHを低く保つ効果が認められ、ドライスキンへの効果が期待された。